

令和7年第3回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問項目	答弁者	摘要
1 (5)	大畠 光敬	<p>1 米の販売価格高騰について</p> <p>(1) 昨年から続いている米の販売価格の高騰について、今後も高騰が見込まれるが、このままの状態が続くと、生産者に影響が出ると思われるのでその対策を町長に伺う。</p> <p>生産者への対策はどのように考えているか。価格高騰は生産者の所得向上に繋がっているが、このままの状態が続くとコメ離れが起こり、消費の減少が危惧され、それが生産量の減少につながる可能性が考えられる。生産者の視点から見て、この米の価格高騰について現状をどう捉え、また町長は今後どのようなことが懸念されると考えているか、そして、そのことについてどのような対策が必要と考えているのか。</p>	町長	
		<p>(2) 米の販売価格について、消費者の視点からどのような対策が必要か町長の考えを伺う。</p> <p>消費者に対する対策はどのように考えているか。物価の高騰への経済対策として、プレミアムポイント事業を実施したが、今後さらなる物価高騰が予想される中で追加的に対策の必要性があるのではないか。主食である米の価格が高騰し、既に家計への影響が顕著である。特に影響の大きい低所得者や生活困窮者などへの対策がすぐにでも必要ではないか。お米券などを配布するなどして、米による直接的な家計支援をしてはと考えるが町長の考えを伺う。</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問項目	答弁者	摘要
2 (1)	加藤 敏晃	<p>1 「米のまち新十津川町」が30年先も「米のまち」であり続けるために</p> <p>(1) 農業経営体の耕作面積の拡大について。</p> <p>① 現在の農業従事者の中心となっている世代が引退する可能性の高いおよそ30年後の未来においても、現在の農地を守っていくためには、法人化などによる更なる大規模化も必要と考えられる。スマート農業は、1戸あたりの耕作面積を増やすために、生産性や収益性を高めるための手段である。地域計画には、目標を達成するために必要な措置として、「スマート農業技術、スマート農業機械を普及、推進し、地域における担い手不足や、耕作面積の増加に対応していく。今後も地域の農業形態に応じた普及、推進に努めていく。」と記載している。「本町の農業の未来」のためには、「スマート農業推進支援事業」の継続的な実施が必要ではないか。</p>	町長	
		<p>② スマート農業の推進支援においては、効率化と併せ、町で現在取り組んでいる「ドローンのまちづくり」を町民に浸透させ、町全体で機運を高めていくために、農家等を対象にした「農薬散布用ドローンの購入費用の助成事業」を再度実施してはどうか。</p>	町長	
		<p>(2) 新たな担い手の発掘と育成について</p> <p>① 一方、人口予測を踏まえると、将来の担い手不足の不安はぬぐえない。地域計画では「ピンネ農業公社が中心となり、新規就農者技術修得センターの機能を活用して新たな担い手の発掘と育成に努める」と記載されているが、具体的にはどのように取り組んで行くのか？</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問項目	答弁者	摘要
		<p>② 新たな担い手の発掘と育成のためには、米農家の新規参入のハードルを下げる仕掛けが必要である。米づくりへの完全に新規の参入は非常に難しいことから、農家を対象にした事業承継支援を導入してはどうか。特に、農業に限らず利用できる「ニホン継業バンク」を活用した事業承継支援を導入してはどうか。また、新規参入者は条件の良い農地を獲得することが困難と思われることから、条件の不利な農地の基盤整備事業を行う場合に、農家の負担の軽減をしてはどうか。</p>	町長	